

球磨川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ
【短期河道】

浸水が想定される範囲を表示

下流部

位置図

索引図

- 1 説明文
- (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率 $1/10$ 、 $1/30$ 、 $1/50$ 、 $1/80$ 、 $1/100$ の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
- (2) この水害リスクマップは、短期（令和11年度）の球磨川水系球磨川、前川、南川、川辺川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率 $1/10$ （毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が $1/10$ （10%））、年超過確率 $1/30$ （毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が $1/30$ （3%））、年超過確率 $1/50$ （毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が $1/50$ （2%））、年超過確率 $1/80$ （毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が $1/80$ （1.3%））、年超過確率 $1/100$ （毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が $1/100$ （1%））の降雨に伴う洪水により球磨川、前川、南川、川辺川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
- (3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和47年7月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
- (4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和元年7月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
- 2 基本事項等
- (1) 公表年月日 令和4年11月
- (2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省九州地方整備局
・八代河川国道事務所：球磨川水系 球磨川、前川、南川、川辺川
- (3) 実施区間
【八代河川国道事務所】
・球磨川水系 球磨川
左右岸：熊本県球磨郡湯前町字焼尾五千五十一番地先市房第2堰堤から海まで
・球磨川水系 前川
左右岸：球磨川分派から海まで
・球磨川水系 南川
左右岸：球磨川分派から海まで
・球磨川水系 川辺川
左右岸：球磨郡相良村大字柳瀬字三石又九百四十九番の一地先の柳瀬橋から球磨川合流点まで
- (4) 算出の前提となる降雨
・年超過確率 $1/10$
（人吉上流域の12時間の総雨量 $220\text{mm}^{\text{※}}$ 、横石上流域の12時間の総雨量 $216\text{mm}^{\text{※}}$ ）
・年超過確率 $1/30$
（人吉上流域の12時間の総雨量 $262\text{mm}^{\text{※}}$ 、横石上流域の12時間の総雨量 $257\text{mm}^{\text{※}}$ ）
・年超過確率 $1/50$
（人吉上流域の12時間の総雨量 $281\text{mm}^{\text{※}}$ 、横石上流域の12時間の総雨量 $276\text{mm}^{\text{※}}$ ）
・年超過確率 $1/80$
（人吉上流域の12時間の総雨量 $298\text{mm}^{\text{※}}$ ）
・年超過確率 $1/100$
（横石上流域の12時間の総雨量 $301\text{mm}^{\text{※}}$ ）
 $^{\text{※}}$ 2℃上昇の温暖化による降雨量の増加を考慮した対象降雨の降雨量
- (5) 河道条件：短期（令和11年度）
- (6) 関係市町村 八代市、人吉市、芦北町、球磨村、相良村、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村
- ※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

凡例
浸水が想定される範囲を表示
(ランク別)

- 高頻度 (W=1/10)
中頻度 (W=1/30)
中頻度 (W=1/50)
中・低頻度 (人吉 W=1/80)
(横石 W=1/100)
想定最大規模
市町村境界
河川等範囲

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 3JHs 700」

1:45000(A0)